

2021年12月6日 第400号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)
http://www.kyodo-center.jp mail: move@zenroren.gr.jp

総がかり行動実行委員会 臨時国会開会日行動に300人

敵基地攻撃能力・大軍拡の岸田政権NO！

参院選勝利にむけ市民と野党の共闘さらに広げよう！

総がかり行動実行委員会・全国市民アクション・共謀罪NO！実行委員会は12月6日昼、「憲法改悪反対！辺野古新基地建設反対！敵基地攻撃能力保有反対！いのちと暮らしと営業をまもれ！12・6臨時国会開会日行動」を行い、300人が参加しました。軍事予算は補正予算を含めると6兆円を超え、「コロナ禍で税金を軍事費に使っている場合ではない」との批判が広がっています。市民と野党の共闘を広げ、憲法を生かした政治を実現するため運動を大きく広げましょう。立憲民主党の白眞勲参議院議員、社民党の福島瑞穂参議院議員、日本共産党の井上哲士参議院議員、沖縄の風の高良鉄美参議院議員があいさつしました。



主催者あいさつを憲法共同センターの木下興全日本民医連事務局次長が行い、「臨時国会では補正予算が審議されるが、政府はコロナ禍であるのに、病院への交付金を減らそうとしている。いのちの選別がされるようなことをさせてはいけない。コロナ危機を口実に緊急事態条項の創設から改憲議論をすすめようとしている。臨時国会にむけた取り組みを各地で強めよう」と呼びかけました。

市民の発言で九条の会の小森陽一さんは、「政府は市民と野党の国会開けの声を無視し、半年間も国会を開かなかった。主権者として許してはいけない。これが菅、岸田内閣の本質だ。憲法改正にむけ自民党は『推進本部』を『実現本部』とし、日本会議国会議員懇談会の中核メンバーである古屋氏と新藤氏を配置した。危険な本質を国民に知らせ、新署名を集め、改憲派の野望を打ち破ろう」と訴えました。

ねりま9区みんな選挙の小原隆治さんは、「市民と野党の共闘を上手にやっていくことが喫緊の課題。東京8区では、トップダウンではなくボトムアップで候補者の一本化の議論をすすめ勝利した。野党だけでなく、市民のがんばりが必要。参議院選に向け今から始めよう」と強調しました。

共謀罪NO！実行委員会の角田富夫さんは、「2013年12月6日に市民と野党の反対を押し切って秘密保護法が強行採決された。戦争する国づくり、敵基地攻撃能力の保有、軍事大国化が進められている中で、重要な情報が隠されることになる。平和と人権を守るため、秘密保護法廃止のために

たたかおう」と訴えました。

市民連合の福山真劫さんは、「憲法破壊、権力の私物化、貧困や格差を拡大させ、辺野古新基地建設を進める自公政権を続けさせるわけにはいかない。衆議院選挙では、改憲勢力に3分の2の議席を許してしまったが、くじけているわけにはいかない。市民と野党の共闘路線は間違っていない。候補者の一本化で多くの成果をあげ、課題と展望をつくり出した。参議院の32の1人区では野党共闘でたたかうしかない。政権の懐柔、分断攻撃に乗せられず、弱点を克服し、本格的な市民と野党の共闘体制をつくるため、参院選にむけてがんばろう」と呼びかけました。

戦争をさせない1000人委員会の竹内広人さんが行動提起を行いました。

●オール埼玉実行委員会 総選挙結果を受け学習会 新署名で草の根からの対話と賛同を！

「今度こそは」の思いを込めて 参院選勝利めざし早い立ち上がり



改憲勢力や大手マスコミなどが総選挙の結果を見て「野党共闘失敗論」を垂れ流す中、立憲野党と共にたたかった市民は総括会議や学習会を開催し、共闘の成果に確信を持ち「今度こそは」の思いを込めて、来年夏の参院選へ向け早い立ち上がりを見せています。

オール埼玉実行委員会は11月26日、総がかり行動実行委員会共同代表の高田健さんを招いて「総選挙の結果を受けて『岸田改憲』にどう立ち向かうか」のテーマで学習会を開催しました。

高田さんは、野党共闘の候補者1本化での成果を紹介し、なぜ「市民と野党共闘」の側の「敗北」となったのかを解明。政権が支持率急落した中で、自民党総裁選のメディアジャック「ご祝儀相場」と「奇襲作戦」で安倍・菅批判を不透明にして、野党共闘に危機感を持った与党が時代錯誤の反共攻撃を仕掛けてきたためと分析。そして私たちの側は、市民連合と4野党が合意した6本20項目の政策を十分に有権者に浸透しきれなかったことや候補者1本化の遅れなどがあったことを指摘しました。「野党共闘」が敗因だったのではなく、野党分断への反撃など、共闘の「質」を問い直す必要があると述べました。

そして、岸田首相の改憲志向が強まり、改憲と日米同盟強化をうたい、選挙公約で防衛費GDP(国内総生産)比2%以上を掲げたため、9条改憲を急ぐ必要があり、「総裁任期中の改憲」を公言しています。高田さんは参院選に向けて、①全国32選挙区で候補の1本化を実現し、改憲派3分の2を阻止し、政治を変える展望を開く、②そのためにコロナ禍での萎縮を脱出し、「憲法改悪を許さない全国署名」に取り組み、街宣、集会、デモなどを活発化する、③その力を背景に共闘をさらに広げ、深化させ世論を変えることを提案しました。

当面の行動

12月9日(木)憲法共同センター 「9の日」宣伝 12時～ 新宿駅西口

12月14日(火)総がかり行動 ウィメンズアクション 18時～ 有楽町イトシア前

12月16日(木)総がかり行動 街頭宣伝 18時～ 新宿駅西口

12月19日(日)総がかり行動 19日行動 14時～ 国会議員会館前